

しなののうた

立秋も過ぎるも残暑続く中

涼風汗を拭いてくれる



杉田小百合

しなののうた

川沿いになびく薄の白き穂が煙のごとくかるく渦巻く

杉田小百合



しなののうた

夜半に鳴くみんなみんな蝉の一声がしじまを破り身に沁み入りぬ



杉田小百合

しなののうた

終日を鳴き続けゆく蝉の声
蝉の一生
われの一生

杉田小百合



しなののうた

蟋と蟬の合唱小気味好く聞きつつ秋の夕暮れに立つ



杉田小百合